

東大病院で病理解剖にご協力頂いた患者さんのご遺族の方へ：

「病理解剖標本を用いた、ガンマナイフ治療後の治療効果の研究」への協力をお願い

東京大学医学部附属病院病理部では、当院で治療を受けたものの、残念ながら亡くなられた患者さんで、ご遺族の御承諾を頂いた方を対象に、死因や病態を明らかにして今後の医療に生かすため、病理解剖を行っております。一般に病理解剖では、全身の臓器をご遺体から取り出して詳細に検索することで、病態を明らかにし、通常の医療だけでは得られない様々な情報を知ることができます。

東京大学医学部附属病院放射線科（当科）では、東京大学医学部附属病院病理部と共同研究として、様々な癌の脳転移や脳腫瘍に対して放射線治療の一種であるガンマナイフ治療を行った後に、病理解剖標本を用いて治療効果を検証する研究を行っております。現在、脳転移、脳腫瘍の患者さんに放射線治療を行った後は、主に画像検査（頭部 MRI、頭部 CT）で治療効果判定をしておりますが、当研究では、実際に脳の組織を取り出して観察して、放射線がどのような影響を与えて治療効果を示すのかを検討します。対象となる方は、脳転移、脳腫瘍の診断でガンマナイフ治療を行った方のうち、病理解剖を行ない、さらに脳を取り出して組織標本を作成した方です。ホルマリン固定した脳の写真、パラフィン包埋ブロックおよび組織標本を脳 MRI と重ね合わせて解析するほか、生前の臨床情報（問診や診察所見、疾患名、処置・手術・投薬等の治療内容、放射線画像（CT, MRI, 核医学検査）、血液検査・生理検査・尿検査・便検査等の各種検査データ、各種臨床評価指標）、を併せて解析対象とします。本研究は、脳組織を顕微鏡で観察し、上記各種臨床情報を加味して、①ガンマナイフ治療の効果の有無の判定、②ガンマナイフ後の MRI と顕微鏡所見の比較対応、③ガンマナイフ後の経過時間と顕微鏡所見の関係を明らかにすること、を主な評価項目としています。解析担当者は、下記の研究責任者・研究担当者の他に、当科に所属する医師が含まれます。

当研究は、他の病理解剖標本を用いた研究と同様に、過去の診療記録、及び通常 of 病理解剖による診断後の標本を対象として行われますので、患者さんご本人の診療には全く影響を与えませんし、不利益を受けることもありません。解析にあたっては、個人情報には匿名化させていただき、その保護には十分に配慮いたします。学会や論文で結果を発表する際には、公開する内容は上記の解析対象全てが該当しますが、個人の特定が可能な情報は全て削除されます。

当研究に関して不明な点がある場合、或いはデータの利用に同意されない場合には、承認研究期間（2015 年 7 月 31 日～2020 年 7 月 30 日）の間に、以下にご連絡頂きたいと存じます。また承認研究期間を過ぎても、連絡を頂いた時点で可能な限り、除外などの対応を致します。なお、当研究は当院の倫理委員会の承認を得ております。また、データや標本の研究での使用をお断りになった場合でも、将来にわたってご遺族の方が当院における診療上の不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

研究責任者：東京大学医学部附属病院 放射線科 講師 山下英臣（内線：37408）

研究担当者：東京大学医学部附属病院 放射線科 病院診療医 櫻町円香

（内線：37410）E-mail: [SAKURAMACHIM-RAD@h.u-tokyo.ac.jp](mailto:SAKURAMACHIM-RAD@h.u-tokyo.ac.jp)

2017 年 5 月 22 日作成